

佳作

Signal

岩手県宮古市立第一中学校

3年 佐々木 真希

私には、先天色覚異常という色覚の異常があります。日常生活に支障はないと思っていますが、美術の授業の時間に色について少しとまどうときもあります。他の人にはどのような色に見えているのかが分からぬいため、少しいら立つこともありました。私の場合、強度の2型2色覚という色覚異常で、青と紫、緑と茶色、緑と黒などの、緑系の色の区別がつかない状態です。私はこれが普通だと思って生活しているので、どれが本当の色なのか分かりません。遺伝的な障がいなので仕方がないと思うようにしていますが、将来就ける仕事も限られてくるので、不安な気持ちもあります。色覚異常とは一生つきあっていくことになりますが、大きな支障なく日常生活が送れていることは、不幸中の幸いです。

私の家の近くには、2011年3月11日に起きた東日本大震災のあとに建てられた、県立の復興住宅があります。そこには目の不自由な若い男性が住んでいるようで、白杖を持ち、周囲を軽く叩いて、安全を確認しながら一歩一歩ゆっくりと歩いていく姿を何度か見かけたことがあります。私は、目が不自由なんだな、いろいろなことが不安だろうな、大変だろうなと、見かけるたびに思ってしまいます。一度、声をかけてみたいと思いながらも、私には勇気がなくて、一度も声をかけることができていません。若く見える方なので、話してみたいと思うのですが、なぜか、次に見かけたときに声をかけばいいか、と躊躇してしまうのです。私の弱いところであり、克服したいことの一つです。声をかけることができれば、案外すんなりとコミュニケーションがとれるのかもしれません。次に見かけたら、今度こそ勇気を出して声をかけてみようと思います。

彼を最初に見かけてから、白杖を使用している方のSOSの出し方について再認識しました。以前から何かで聞いて知っていましたが、SOSシグナルといい、Signalとは合図という意味です。目の不自由な人が、外出先で道に迷ったり、危険を感じたりして、何らかのサポートが必要になったときに、白杖を頭上50センチメートル程度に掲げる動作を、白杖SOSシグナルといいます。これは周囲に助けを求める合図であり、見かけたときは必ず正面から声をかけながら近づき、どのようなサポートが必要かを訊き、手を貸すことがよいということを確認しました。また、これを母や祖父母にも教えました。小さなことですがとても重要な知識だと思いますし、すべての人が知っておくべきだと感

じました。

最近、市内を歩いているとよく自転車に乗っている人を見かけます。そして、点字ブロックの上をすいすい走っていきます。そればかりか、点字ブロックの上に自転車を駐輪し、買い物のためにいなくなる人も見かけます。また、ワインカーを出して停車している車や、点字ブロックのある道路の上で車を停め、エンジンを切って車から離れてしまい、誰も乗っていない車も見かけたことがあります。このような自己中心的な行動は、危険きわまりないものであるため、私は激しい怒りを感じました。点字ブロックの上に自転車や車、物を置くなどして歩行を妨げる行為は、バリアフリー法などの趣旨に反し、道路交通法や自治体の条例などに抵触する場合があるのです。そして、点字ブロックは目の不自由な人の命綱なのです。今度、点字ブロックの上に自転車や車が停まっているのを見かけたら、思い切って話しかけようと思います。笑顔で、言葉を選び、相手の立場を尊重して呼びかけたいです。小さなことですが、私の人生の大きなチャレンジになることでしょう。

私は今まで家族や学校に守られて生活してきました。もう少しで 15 歳になります。これからは自分の考えや意見を前面に出し、善いものは善い、悪いものは悪いと言えるようになりたいと思っています。また、自分から変わろうと思うことが大切なんだと日々の暮らしの中で気づきました。

まずは一人一人が社会のルールや交通ルールを守り、いろいろな病気や身体が不自由な人たちも生活している社会だということを意識して、全ての人にやさしい町や社会になっていくことが必要だと思います。そして、配慮の欠けた行為や困っている人を見かけたら、積極的に声をかけたり、サポートをしたりして、自分から行動を起こそうと思います。今も、誰かが、どこかで、誰かの手を借りたいという合図を送っているかもしれません。少しでも、その助けに私はなりたいのです。多種多様な人々が共生するこの社会では、支え合って生きていくことが必要不可欠だから。